

## AI を活用した医薬連携による疾患啓発の取り組み

総合メディカル（株） そうごう薬局芹が谷店

中田 樹

### 【目的】

かかりつけ薬剤師・薬局が持つべき機能のひとつとして、患者からの健康相談に対応し必要に応じて受診勧奨をすることが求められている。そのため、もっと多くの方に気軽に薬局へ相談してもらい、薬局が疾病予防や健康に貢献できる手段はないかと考えた。そこで、病院で一定の効果が報告されている AI のコンテンツを活用し、薬局で疾患啓発及び医薬連携ができないかと考え、取り組みを行ったので報告する。

### 【方法】

2018 年 1 月にそうごう薬局 T 店の待合室に AI（人型ロボット Pepper<sup>®</sup>）を設置し、来局者が待ち時間に自由に触れられるようにした。まず、糖尿病と花粉症について、既存のコンテンツ「健康チェック」を利用し、来局者が簡単な質問に答えることで疾病の予防や症状に関する知識の啓発及び疾患の可能性を示すスクリーニングをした。その後、応需先の内科医と皮膚科医と連携して過敏性腸症候群と尋常性ざ瘡の 2 疾患についてオリジナルのチェックツールを作成しスクリーニングを実施した。その結果を基に、疾患の可能性を示した方へは薬剤師が受診勧奨し、医師に情報提供文書で報告した。

### 【結果】

1 月～9 月に AI に触れた来局者は、20 歳～67 歳の延べ 400 名であった。健康チェックにより疾患の可能性があるとされた患者は、糖尿病 72 名中 48 名、花粉症 275 名中 105 名であった。同じく尋常性ざ瘡 33 名中 2 名、過敏性腸症候群 22 名中 1 名については受診勧奨を行い、各 1 名が治療開始となり症状が改善した。また、医師との面談回数も増え、別の疾患での実施の要望も出た。

### 【考察】

AI を取り入れることは、幅広い年齢層の方が自身の体質や疾病の可能性の確認に興味を示し、効率的な疾患啓発に役立つことが示唆された。また、待ち時間を利用して患者自らが気軽にチェックできることで薬局に相談しやすくなり、受診勧奨や病院への情報提供を通じて早期治療への貢献及び医師との連携強化にも繋がったと考える。